



京都大学フィールド科学教育研究センター

Field Science Education and Research Center, Kyoto University

フィールド科学教育研究センターの発足にあたって



京都大学では1990年代後半より地球環境科学研究構想の実現に向けて全学的な取り組みを進め、その一環として2003年4月にフィールド科学教育研究センターを発足させる運びとなりました。2001年4月改組の生態学研究センター、2002年4月新設の大学院地球環境学堂・学舎・三才学林に続くフィールド科学教育研究センターの設置により、わが国を代表する体系的な地球環境学の教育研究体制が本学に完成することになります。当センターは生態学研究センターや地球環境学堂・学舎と密接に連携し、その現場教育や現場実験に多様なフィールドを提供するとともに、地域に深く根ざした現場データを集積し、わが国が世界に誇る長期生態学研究サイトとしても国際的に重要な役割を果たすことが期待されます。本学には、建学以来自由な学風の下に多彩なフィールドサイエンスを発展させてきた素晴らしい伝統があります。そうした歴史的な伝統の上に当センターが発足することは誠に喜ばしいことであります。

フィールド科学教育研究センターは、理学研究科附属瀬戸臨海実験所、農学研究科附属演習林・亜熱帯植物実験所・水産実験所の4施設を統合し、これまでそれぞれの研究領域ごとに個別に進められてきた教育研究を、フィールドをベースに理学的基礎研究と農学的应用研究の融合を柱に統合を図るものです。当センターが目指す森-海連環学は、森林国であり海洋国であるわが国の自然環境から生まれる新たな統合科学として世界的にも大変注目されるものであります。21世紀の人類生存にとって不可欠な、人と自然の共生を森と海をつなぐ里域生態系に求める発想は、新たな科学の創生にとどまらず、人々の価値観の変革にも貢献し得るものと期待されます。本学はこの間大学の社会に開かれた窓として重要な役割を担う総合博物館や学術情報メディアセンターを設置してきました。当センターがこれらの組織と連携して、神秘に充ちた自然の多様な情報を発信し、社会連携の新しい道を切り開かれることを願っております。

フィールド科学教育研究センターは、本学の多様なセンターの中でもユニークな"教育研究"センターであります。21世紀は新しい教育の世紀として大学教育への期待や要望が一層高まりつつある中、当センターが全学的視野で新たな個性豊かな教育の推進に大いに力を発揮されることを願って止みません。

京都大学総長

長尾 真

設置の理念と目標

理念

わが国の自然環境を特徴づける森林生物圏と沿岸海洋生物圏は、本来不可分に連環しつつ、私達の生存に計り知れない恵みをもたらしてきた。しかし、近年における人間活動の加速度的な膨張は、このような自然の不可分のつながりを著しく分断し、深刻な地球環境問題を引き起こしつつある。

森と海の豊かな自然の再生と持続的利用には、その間に介在する人里空間のあり方が問題となり、里域生態系解明への新たな挑戦が求められる。このような基本的な考えに基づき、新たなフィールド科学としての森・里・海連環学のフロンティア組織を創生することは意義深いことである。

当センターは、温帯域におけるフィールド科学の教育研究拠点として、人と自然の共存原理に資する新たな科学を創造し、新たな価値観の形成をめざす。

目標

当センターは、左記の理念を実現するため、以下の点を重点に教育と研究を展開する。

森林生物圏、里域生物圏、沿岸海洋生物圏間の連環機構の解明

森林生物圏、里域生物圏、沿岸海洋生物圏における基礎科学の展開

森林域、里域、沿岸海域における各ステーションの長期的生態学研究拠点としての機能強化

自然生態系や地球環境の保全に関する地域に根ざした現場教育と研究の展開

森林域、里域、沿岸海域における生物圏情報の発信による社会連携の推進

地球環境問題の解決に貢献し得る総合的視点と優れた専門性を兼ね備えた人材の育成



京都大学フィールド科学 教育研究センターの 5つの構想と発展性

高度で幅広いフィールド教育の推進

フィールド科学の統合と新展開

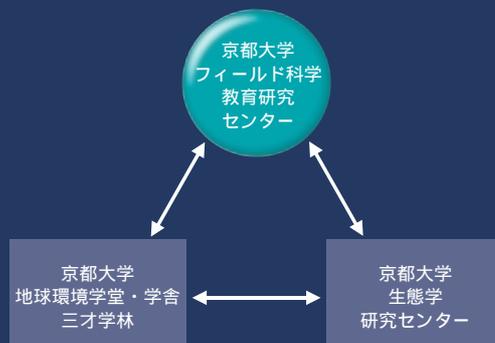
長期連続データの蓄積

地球環境の保全利用に向けての提言

自然と人間との共存へ向けた社会連携

フィールドを基盤とした教育・研究の展開

森・里・海連環の解明
フィールドミュージアム
温帯域フィールドの研究拠点



資源循環、生態系保全、生物多様性保全など
地球環境問題への解決に挑戦

京都大学地球環境科学研究構想

フィールド科学の創造

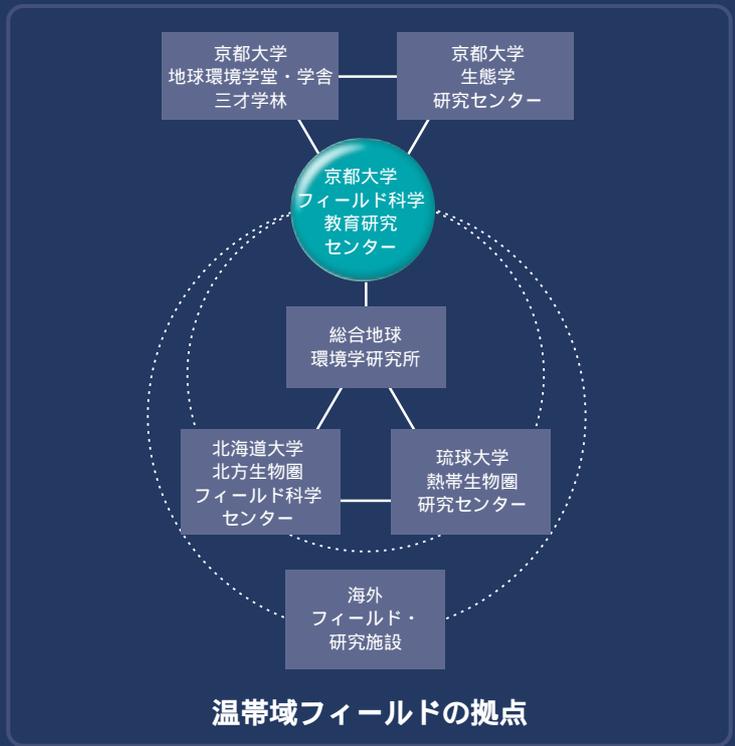
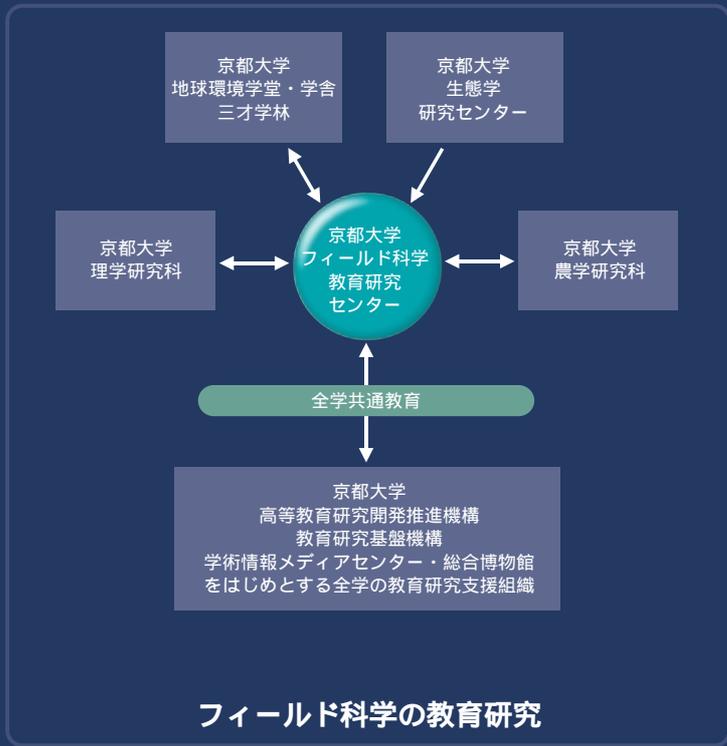
1. 理学と農学の融合
 2. フィールドベースの環境科学の定着
 3. 専門分化から統合への変革
 4. 農林水産学を統合し新たな分野の創出
- < 21世紀型科学の創造 >

森・里・海の連環学の創造

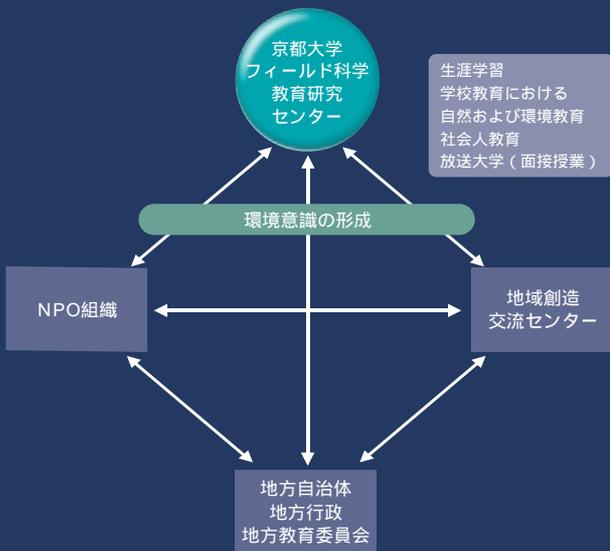
1. 異質生態系の連環
 2. 里域生態系の共生原理
 3. 森・里・海と人間生活との調和
- < 世界へ発信する新領域科学 >

温帯域フィールド

1. 人間活動の集中域に拠点構築
 2. 北方生物圏と熱帯生物圏の架橋
 3. 大都市圏と“原生林”の共存
 4. 日本海と太平洋をカバーする立地条件
- < 京都大学からアジア・世界の拠点形成 >

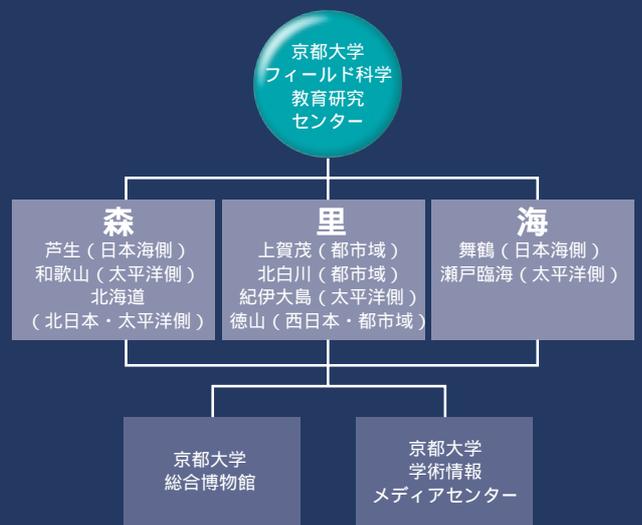


織図



豊かな知識・精神・文化を有する人間社会の形成
地球環境と人間社会との調和の再構築

地域社会との連携 社会への知識の還元



フィールドミュージアム 学習の森・里・海



京都大学フィールド科学教育研究センター
Field Science Education and Research Center, Kyoto University

京都市左京区北白川追分町 〒606-8502 Tel.075-753-6420 Fax.075-753-6451 e-mail : joho@kais.kyoto-u.ac.jp
